

明日へ

61

これが我が社の生きる道

織布編



笹田社長

「用途はまた広げていく。製品に限らず、粗目織物の可能性を追求したい」と笹田昌孝社長(42)は言う。奈良は蚊帳地など密度の粗い織物を伝統的に得意

とする産地。笹田織物の生産品もインチ間密度は平均40本、最も低密度なものは1インチあたり12本になる。主力のふすま地のほか、蚊帳織り技術を生かした「やわらかストール」や、布巾も製造販売する。

創業は1911年と古い。大和絨や蚊帳地、大和木綿から始め、戦後は粗目織物、戦後は粗目織物

笹田織物

後、ふすま地の

粗目織物の可能性追って

と京都府木津川市の1産地だけで全国シェア9割を占めるふすま地生産の一翼を担っている。ただ、生産量は昌孝氏が家業に戻った15年前には生活様式の変化もあって既にピークを過ぎ、



所狭しと22台のエアジェット織機が並ぶ工場

生産減に拍車がかかり、かつての太い柱は折れそうに細くなり、インテリア市場全体も冷え込んだ。そこで力を入れたのが製品事業だった。ふすま地で使い慣れた1インチ短繊維に加工も駆使

して、粗目織物特有の柔らかな風合いのストールを開発。以来、絹細糸、合繊など他素材も積極的に用いて新作を積極的に打ち出し、製品展示会を通じて販路を広げてきた。自社のほか、パレルや通販へのOEM

も広く手掛け、新たな風合い開発に日々いそむ。産地の新しい顔となった蚊帳布巾も手掛けるが、アプローチは他社と一線を画す。数千枚単位の単品量産が基本の蚊帳布巾だが、プリント対応や、柿渋染めや合織との交織など素材高付加価値化を絡め、あえて最終製品にこだわらず、先入観なしに価値を見つけてくれる顧客はまだ多い。製品事業は生産量の構成比は1割に遠く及ばないが、利益面の貢献度は年々高まる。製品

社名：笹田織物株式会社
本社：奈良県磯城郡田原本町新町282
代表者：笹田 昌孝
電話番号：0744-32-2063
URL：sasaori.com
主要設備：津田駒工業製エアジェット織機22台。うち12台がドビー搭載(綜統枚数は14~16枚)で、箆(おさ)幅は150~170mm。ドビー搭載シャトル力織機3台。その他、整経機2台(荒巻機、部分整経機、各1台)も保有
従業員：10人

スリッパしやすく高度な縫製に不向きだと思われてきた服地用途でも、製品染め染工場との取り組みで、今春夏からパレルの採用を得た。産業資材を出自に持ち、元来、工業量産品の粗目織物は「製品化しても安売りしがち。ただ、他産地にまねできない技術。最

中心に事業をスリム化する考えも時には頭をよぎる。ただ、「今は逆に人を増やしたい」と考えている。「機場にも入れる若い人材を採って、企画強化を図り、量産と製品の二足のわらじで、従業員と100歳を超えた工場を守っていききたいという。